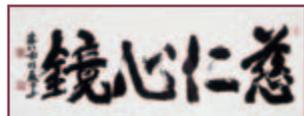




関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

香里病院 近況

開院まで1年になりました



3階躯体を工事中、進捗率35%

16ページに関係記事 7月末現在の施工出来高は35%、3階躯体(4階床)を工事中です。7月29日撮影

C O N T E N T S

アクション 2015	2	病院	14
法人 新体制スタート	3	卒後臨床研修センター	16
自己点検・評価委員会活動報告	3	附属看護専門学校	17
本学創設史をめぐって	5	キャンパス・ニュース	18
大学 平成22年度入学試験要項	6	メディア情報	19
学事	7	同窓会	19

アクション 2015

枚方学舎事業、人材育成の着実な進行を 21年度 6領域19の実行PTがスタート

常務理事 徳永 力雄



本学は、法人の経営と業務の改善を目的に、平成18年度から毎年、全部署横断の実行チームを立ち上げて課題の解決に当たってきました。その甲斐があり、特別収支を除いた経常収支差額が平成20年度は4年ぶりに6億3千5百万円の黒字になりました。教職員一丸となった努力の賜物と心からお礼を申し上げます。

平成20年度は“Action 21”と呼称して21の実行チーム(取り上げた課題は48課題)が活動しました。去る3月16日の理事会の総括では、収支改善見込額は対予算比で2億1千7百万円でした。また、全48課題毎の達成度に関する自己評価は、A(100%達成)が7課題、B(70~90%達成)が16課題、C(40~60%達成)が11課題、D及びE(30%未

満達成)が13課題、その他が1課題でした。

3か年の活動により、取り組むべき真の課題がより明確にかつ具体的に増えてきたことは数字には現れない収穫ですし、何よりも病院はじめ各部署の教職員の皆様の問題解決意識が亢進していることを力強く感じています。

平成21年度は、下記のように6領域19のプロジェクトチーム(PT)で前年度の課題を継承して実行することになりました。枚方学舎等施設整備事業をはじめ、制度改善や人材育成などが着実に進行することを期しています。

皆様のさらなるご理解とご協力をお願いいたします。

“アクション2015” 21年度実行PT(プロジェクトチーム)

教育・研究

- PT 1: 経常費補助金増額
- PT 2: 女性医師支援(病児保育、短時間正職員制度、等)
- PT 3: 広報活動推進
- PT 4: 看護教育検討

医療

- PT 5: 大阪北東部における事業強化・連携網再構築
- PT 6: 附属病院の機能分担(枚方・滝井・香里の3病院)
- PT 7: 枚方病院改善(予算遵守、がん診療連携拠点病院指定、4疾病の地域連携パス構築、5事業推進)
- PT 8: 滝井病院改善(収支改善、最終 キャッシュフロー2.5億円目標)

施設整備

- PT 9: 枚方キャンパス統合移転整備事業計画(企画推進委員会)
- PT10: 附属滝井病院再編計画(病棟・外来再編、施設改修・保全計画)
- PT11: 香里病院開院計画(運営計画)

財政

- PT12: 予算管理強化(月次報告早期化、中間見直し実施、設備・備品・情報関係投資の執行管理)
- PT13: 医薬品・診療材料経費削減(後発医薬品移行、等)
- PT14: 中長期資金収支シミュレーション改定
- PT15: 枚方キャンパス建設資金計画策定

人材育成、人事給与制度

- PT16: 人事給与制度構築(目標管理制度試行)
- PT17: 人材育成(長期教育計画、OJT、OFF-JT)
- PT18: 職場復帰支援(看護師等職場復帰支援、短時間正職員制度、等)

経営管理

- PT19: 組織・業務プロセス改善(病院再編・人員再配置、看護師確保、組織・業務改善)

法人

法人 新体制がスタート 塚原理事長、徳永常務理事 再任される

今年の6月から今後3年間、本学法人の舵取りをする塚原勇理事長、徳永力雄常務理事が再任されるなど役員・評議員の新陣容が5月27日(水)午後4時から大阪市北区中之島のリーガロイヤルホテルで開催された理事会・評議員会で承認可決され、正式にスタートしました。任期は平成21年6月1日から平成24年5月31日まで。同理事会では、役員・評議員選任の他、平成20年度事業報告、平成20年度決算に関する案件についても審議され、いずれも承認可決されました。

役員・評議員

理事長 塚原 勇
常務理事 徳永 力雄

(理事)

塚原 勇	井植 敏	井関 隆政(新任)
山下 敏夫	徳永 力雄	岩坂 壽二
澤田 敏	神崎 秀陽	伊藤 誠二
新宮 興	今村 洋二	高橋 伯夫
鮫島 美子		

(監事)

滝井 繁男 竹山 明宏

(評議員)

塚原 勇	青井 一雄(新任)	秋田 光彦
井植 敏	池原 進	井関 隆政(新任)
伊藤 誠二	今村 洋二	岩坂 壽二
宇都宮良男	神崎 秀陽	佐藤 茂雄
鮫島 美子	澤田 敏	四方 伸明
新宮 興	高橋 伯夫	高山 康夫(新任)
竹中 統一	田代 芳子	螺良 愛郎
徳永 力雄	内藤 博江	長谷川 正
福田 國彌	藤井 茂	水野 孝子
安田 照美	山下 敏夫	吉本 康明

第7次自己点検・評価委員会活動報告 第8次に向け不断の活動を要望

第7次自己点検・評価委員会活動の総括が6月9日(火)の全学教授会において木原裕委員長(物理学教授)から報告されました。当委員会の活動は、認証評価の受審に重点をおいたことから、第8次委員会では、本学における不断の自己点検・評価の活動となるよう要望がありました。また、第8次中央委員会の委員長には藤井茂教授(化学)、教育小委員会委員長・金子一成教授(小児科学)、研究小委員会委員長・赤根敦教授(法医学)、管理運営小委員会・出水順治財務部長を選任したことも併せて報告されました。そこで、今回まとめられた第7次自己点検・評価委員会活動報告書の概要を紹介します。

第7次自己点検・評価委員会活動報告書

主な活動

<平成19年度>

本委員会は、前期第6次委員会のあとを受けて、1年目は、作成されている自己点検・評価報告書を基に、大学基準協会の実施視察を受けること、報告書で提起された改善

項目を点検し、その進捗状況の点検を行った。視察の結果は、平成20年3月、本学に報告され、財務状況についての勧告付きながら、適合していると大学基準協会から認定された。

<平成20年度>

- (1) 点検・評価報告書を編集・発行した。冊子体は少数にとどめ、配布用にはCD版を編集・発行した。
- (2) 前年度に引き続き、検討項目を見直した上で改善方策の進捗状況を点検した。
- (3) 自己点検・評価活動の長期プランを検討した。
- (4) 財務状況の勧告への対応を行った。
- (5) 長期プランに基づき、本委員会の位置づけを見直し、それに合致するよう規程の変更を行った。
- (6) ブレインメディカルリサーチセンターからの依頼を受け、同センターの評価を行った。

教育・研究・管理運営各分野の改善方策の実施状況の点検

(1) 教育

改善方策の実施状況

- ① 大学院FDを実施した。

法人

- ②チュートリアル教育の改善を目指して、ワークショップの開催、チューターガイドの作成など、多くの試みを行っている。
- ③卒前・卒後臨床教育の充実を目指して、5、6学年の臨床実習カリキュラムを改善した。
- ④シミュレーション教育の充実のためにアドホック委員会を設置して、内容の検討を始めた。
- ⑤大学院教育の一層の充実を目指して、修士課程の設立、臨床系大学院コースの新設など多くの改革案を検討した。
- ⑥教養教育のあり方委員会答申に基づく教養部での心身教育の一端を担うため「健康・スポーツ医学」を「健康科学」に改編して開講した。
- ⑦医師不足問題に大学として対応するために、平成21年度より地域、特別診療科枠を設けた入試制度に変更し、入学定員を100名から110名にした。

(2) 研究

改善方策の実施状況

- ①学長主導のアドホック委員会(大学院活性化委員会)にて大学院に臨床系社会人コースを新設し、本学附属病院の専修医等が勤務しながら大学院に入学し研究できる体制を設け、臨床系教員の研究活性化を図ることを検討した。
- ②附属枚方病院勤務のため滝井での大学院セミナー・大学院講義等に参加しにくい教員、大学院生のために遠隔講義を行い、研修機会の改善を図った。
- ③産学連携を進めるために組織整備を図った。
- ④附属生命医学研究所生体情報部門の教員を増員し、総合研究施設との間の組織整備を行った。また実験動物施設関係との効果的運用についても検討している。
- ⑤大学情報センターでは、学外からイントラネットにVPN経由でアクセスできるサービスを開始し、メールの送受信、図書館を通じた学術情報へのアクセスなどを可能にした。動画・映像配信サービスを拡大し、ALC(英語 e-learningシステム)サービスも開始した。滝井、枚方間の遠隔会議・講演中継をサポートしている。
- ⑥図書館では、オンライン雑誌を増やした。また業績データベース、研究者データベースの構築を行った。

点検・評価報告書のCD版が完成

本学は、平成19年度に外部の認証評価機関である大学基準協会による認証評価を受審し、平成20年3月に大学基準適合の認定を受けました。

このほど、認証評価受審のために取りまとめた点検・評価報告書ならびに認証評価結果をCD版(写真)として作成しました。

寄付金

施設設備整備拡充事業資金へご寄付いただきました方々のご芳名を掲載して感謝の意を表します。(平成21年5～6月分)

〈個人〉

相澤 眞澄夫 様	須藤 直廣 様
植木 秀実 様	西浦 眞理子 様
大澤 知子 様	宮本 保幸 様
河合 謹豪 様	森田 久樹 様
匿名 6件	

〈法人〉

匿名 1件

(3) 管理運営

改善方策の実施状況

- ①中長期経営ビジョン「ジャンプ2020」、「アクション2015」に基づいて、長期資金収支計画を策定し、機関決定した。平成20年度は、この計画を大学基準協会宛てに提出した。長期計画に基づき、平成21年度予算を組んだ。平成21年度は、帰属収支の10億円黒字達成、法人全体の最終キャッシュフローの黒字化を達成することを目指している。次年度からは、半期単位の決算を行うことにより、予算達成体制の強化を図ることとなった。
- ②平成20年度のSDとして、新入職員フォローアップ、新任管理職研修、ミドル層研修会、事務職員研修会、DPC研究会などを行った。
- ③教員評価の方法を改善し、高評価者には図書券を贈呈するなどインセンティブを与えるべく改善を図った。
- ④一般職人事制度改革案を策定、決定し、多数の説明会、研修会を催して、意見の聴取、趣旨の徹底を図った。
- ⑤自己点検・評価委員会に関する規程を改正し、より合理的な活動ができるように改善を図った。
- ⑥第7次認証評価結果報告を刊行した。教員の業績については、研究業績データベースを作成し、インターネットで公開した。
- ⑦大学の焦眉の問題を速やかに解決することを目指して、いくつかのアドホック委員会を立ち上げ、多くの問題を改善している。

なお、本学ホームページで第6次自己点検・評価として公開しています。



〔問い合わせ先〕

大学事務局総務部庶務課
(自己点検・評価中央委員会事務局)
TEL06-6992-1001 内線2112

法人

大阪信愛女学院短大と学術交流に関する包括協定書の調印式行われる

本学と大阪信愛女学院短期大学との学術交流に関する包括協定書締結の調印式が6月5日(金)午前、大阪信愛女学院短期大学において行われました。

本学の山下敏夫学長と大阪信愛女学院短期大学の高坂祐夫学長が協定書に署名、協定書締結を交わしました。大阪信愛女学院短期大学では、今年度から3年制の看護学科が設置され、今回の協定締結によって、本学との間で看護教育・看護臨地実習等の交流が行われることになります。



がっちり握手する山下学長(左)と大阪信愛女学院短期大学・高坂学長(右)

関西医科大学の創設史をめぐる ―和辻春次・濱地藤太郎先生と学生たち―



創立80周年記念事業の一環として、本学の創設史「関西医科大学の創設史をめぐる―和辻春次・濱地藤太郎先生と学生たち―」を田代裕元学長と熊澤忠躬名誉教授が共著、このほど完成、発刊の運びとなりました。そこで、両氏の発刊に当たっての挨拶の一文を紹介し

ます。

関西医科大学の前身、大阪女子高等医学専門学校(大阪女子医専)は、昭和3年(1928年)6月30日、大阪の耳鼻科医、濱地藤太郎先生によって西日本初の

員の全員交代、学則内規の一部改正、教職員の任免などの改革を断行されました。

和辻春次自身もこれら改革を断行後、昭和5年1月24日に理事長を、同年3月15日に校長を辞任し本学を去られ、松尾巖京大教授が4代目理事長に、また前田鼎京大教授が2代目校長に就任、本学の創設事業は松尾・前田体制によって継承されました。斯くして、昭和8年6月15日には第一回卒業式が挙行され、本学の創設期は終了しました。

本学はこのような波瀾万丈の創設期を経過しつつ創設されたのですが、この創設史、特に濱地による創設から昭和5年3月15日における和辻校長辞任までの創設前半史の詳細は解明されないままになっておりました。そのため本学の建学の精神や教育理念は、平成

創設前半史の詳細解明に全力、近々発刊 田代元学長、熊澤名誉教授の共著

私立女子医専として大阪府北河内郡牧野村に創設されました。濱地は初代理事長に就任し、その恩師京都大学名誉教授和辻春次先生を初代校長に迎え、同年7月10日に開校式兼第一回入学式が挙行されました。

しかしながら昭和2年には日本で金融恐慌が、また昭和4年には世界恐慌が発生し、銀行の融資が止まり、本学の経営は破綻、濱地は昭和4年9月2日に初代理事長を、さらに同年12月28日には評議員をも辞任、本学を去られ、濱地の推挙で2代目理事長に就任した酒井栄蔵も12月28日に辞職、本学は廃校の危機を迎えました。このような事態に直面し在校生と父兄会は強力に学校存続を訴えました。

和辻春次校長は、昭和4年12月28日に理事長(3代目)を兼任、本学の教育と経営を京都大学医学部教授の全面的支援と京阪電鉄株式会社の経済的援助によって立て直す方針を立て、昭和5年1月に学校法人役

6年10月の自己点検・評価委員会の指摘の通り、明確に示されることはありませんでした。

私どもは平成5年1月から本学の創設史の調査・研究を開始し、同12年12月に中間報告として「関西医科大学の歴史と建学の精神 教育理念 学風」を出版して頂きました。しかしながら、この時点では創設史の詳細や濱地藤太郎による本学創設の動機、和辻春次の人間像、本学の創設と和辻と濱地の人間関係といった諸問題を解明することはできませんでした。

そこで平成12年1月以降、私ども二人は本学の創設前半史の詳細や上記諸問題の解明に全精力を傾注し、何とか本書を書き上げることができました。この小冊子が本学の創設正史のための補足資料の一つとなり、本学の建学の精神、教育理念のさらなる解明のために、少しでも役立つばかりであると思っております。

大 学

2009 オープンキャンパス イン 枚方

熱心に最新設備の見学・相談

平成21年度オープンキャンパスは、7月25日(土)午後から附属枚方病院で開催されました。小雨模様のあいにくの天気ながら112名(受験生55名、保護者57名)が参加、13階の講堂は満員になりました。

午後1時から山下敏夫学長の挨拶、菌田精昭専門部教務部長のレクチャー「関西医科大学のキャンパスライフ」、藤井茂入試センター長の「入試概要説明」が行われた後、午後2時から施設見学及び教職員・在校生による受



健康科学センターを見学

験相談や学生生活相談といった個別相談会が実施されました。また、13階レストランのぞみでは、本学創立80周年記念、附属枚方病院紹介ビデオを放映、フリードリンクのサービスとともに淀川を一望できる眺望を提供しました。

また、今年は2回目のオープンキャンパスを8月15日(土)に同病院で開催、205名(受験生98名、保護者107名)もの参加者でにぎわいました



説明に聞き入る参加者でいっぱい

平成22年度入学試験期日・選抜実施要項が決定

平成22年度本学入学者選抜試験の実施期日及び選抜方法が、下記のとおり決定しました。

【推薦入学試験】

〔募集人員〕

約20名

〔願書受付期間〕

平成21年11月1日(日)～11月10日(火)(消印有効)

〔選抜方法〕

第1次選考

書類選考

第2次選考(第1次選考の合格者に対して実施)

- (1) 小論文
- (2) 適性検査(数理的問題、英文問題も含む)
- (3) 面接(集団・個別)

〔実施期日〕

平成21年11月22日(日)(第2次選考)

〔合格発表日〕

第1次選考:平成21年11月18日(水)

第2次選考:平成21年11月27日(金)

【一般入学試験】

〔募集人員〕

約90名(一般枠 約80名、特別枠 約10名)

〔願書受付期間〕

平成21年12月14日(月)～平成22年1月20日(水)
(消印有効)

〔選抜方法〕

第1次試験

入学者選抜学力検査実施教科・科目

- (1) 数 学: 数学I・数学II・数学III・
数学A・数学B・数学C
- (2) 外国語: 英語I・英語II・リーディング・ライティング
- (3) 理 科: 物理I・物理II、化学I・化学II、
生物I・生物IIの3科目から2科目選択
(試験場で問題配付後、選択。物理IIのうち
「原子と原子核」を出題する場合には、
選択問題とする。)

(4) 小論文

第2次試験(第1次試験合格者に対して実施)
面接

〔実施期日〕

平成22年 1月30日(土)(第1次試験)

平成22年 2月13日(土)(第2次試験)

〔合格発表日〕

第1次試験:平成22年2月9日(火)

第2次試験:平成22年2月18日(木)

※詳細は募集要項参照

学 事

関西医科大学医学会賞 優秀賞・奨励賞 若手研究者3人を表彰

第8回関西医科大学医学会賞の表彰式が5月26日(火)午後3時30分から専門部学舎1号館5階大会議室で行われ、優秀賞の谷尻力さん(内科学第一講座)と奨励賞の小西将矢さん(耳鼻咽喉科学講座)、覚道奈津子さん(形成外科学講座)に山下敏夫学長から表彰状及び賞金が授与されました。そこで、今回、優秀賞・奨励賞の受賞者3名に受賞の感想文を寄稿してもらいました。

関西医科大学医学会(委員長・螺良愛郎教授)は、3月6日(金)小児科学講座主催の第125回学内学術集談会で第8回関西医科大学医学会賞の応募口演が行われ、続いて開かれた選考委員会で受賞者が決定していました。



山下学長を囲んで記念撮影

優秀賞 研究生活の一番の苦労は貧血との戦い

内科学第一講座 谷尻 力



今回の受賞にあたり、私の大学院時代を振り返ってみました。臨床検体を用いた研究で同様の内容が相次いで報告され、途方に暮れていた時にホジキン病細胞株KM-H2と出会いました。このKM-H2との出会いが大きなturning pointでありました。研究生活での一番の苦労といえば、貧血との戦いでした。リンパ球採取のために、頻回大量採血を行っていたため、全身倦怠感を味わった時もありました。また一番の思い出は、KM-H2が活性化したT細胞が Foxp3 遺伝子を発現していたことを証明した時です。あの時の感動は一

生、忘れることはないと思います。最後に、ご指導賜りました福原資郎教授、清水俊樹先生をはじめ、諸先生方に深謝いたします。

論文題目

Hodgkin's Reed-Sternberg cell line (KM-H2) promotes a bi-directional differentiation of CD4⁺CD25⁺Foxp3⁺ T cells and CD4⁺ cytotoxic T lymphocytes from CD4⁺ naive T cells.

奨励賞

内耳治療を臨床応用へ

耳鼻咽喉科学講座 小西 将矢



この度の奨励賞受賞、誠に有り難うございます。

耳科領域のcommon diseaseである内耳疾患(感音難聴等)は治療困難なのが現状です。蝸牛という特殊な構造内に存在する細胞の変性(消失)がその病変の首座であり、それらの細胞(周囲の細胞)を直接操作することで再生医療等への応用が可能となり、当疾患の治療につながると考えられています。

本研究では細胞操作の手段としてアデノ随伴ウイルスベクターによる遺伝子導入法を検討し、ベクターを含めた投与手技(手術)の安全性と蝸牛内の細胞への効率的な遺伝子導入が示唆されました。今後は当研究結果を踏まえた上で、内耳治療の臨床応用へ近づいていければと考えています。

論文題目

Gene transfer into guinea pig cochlea using adeno-associated virus vectors.

基礎から臨床への橋渡しを

形成外科学講座 覚道 奈津子



この度は荣誉ある第8回医学会賞奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。脂肪組織由来幹細胞(ASCs)は骨髄間葉系幹細胞(BSCs)と同様の多分化能をもち、脂肪組織は骨髄に代替する幹細胞の供給源であると報告されています。本研究により、FGF-2はASCsの増殖を促進させるだけでなく、PPAR γ の発現を増加させることにより脂肪分化も促進することが示唆されました。このことにより、FGF-2添加培地を用いて少量のドナー(脂肪組織)から脂肪への分化能を有する幹細胞を大量に調製することが可能であることが明らかになり、今後の再生医療応用に有用であることが期待されます。今後は基礎から臨床へ橋渡しができるような研究を続けていきたいと思っています。これまで素晴らしい研究環境と適切なご指導と与えてくださった楠本健司教授、そして審査やご指導頂いた諸先生方には、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

論文題目

Fibroblast growth factor-2 stimulates adipogenic differentiation of human adipose-derived stem cells.

学 事

文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」

立命館大と大阪医大の2件の取組み 採択される

本学では、このほど平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」2件が採択されました。一つは、立命館大学(京都市中京区)との「理工医薬融合型ライフサイエンス高度専門教育システムの創成」の取組みと、二つ目は、大阪医科大学(大阪府高槻市)との「淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム」の連携です。

理工医薬融合型ライフサイエンス高度専門教育システムの創成(立命館大学との連携)

本学の医学に関する教育研究資源と、立命館大学の理工学、薬学をはじめとした総合大学としての多様な教育研究資源を相互に活用することにより、「琵琶湖・淀川流域(滋賀・京都・大阪)における地域に根付いた理工医薬融合型ライフサイエンス高度専門教育システムの創成」を目指します。

両大学が位置する琵琶湖・淀川流域は、上流域に医療、薬品、食品等の研究所が存在し、中下流にはわが国有数の家電、医療機器、環境、製薬等産業が集積する重要な地域として知られています。本取組によって、両大学の強みを生かして、既成の学問の枠を超えた理学・工学・医学・薬学の「共有→融合→標準化→高度化」の実現により、グローバルに活躍する融合的視野を備えた高度専門職の創出による研究開発への人材輩出や既存専門職の高度化を図ります。

また、世界をリードする海外のトップクラスのGlobal Standardの大学教育プログラムに学び、ライフサイエンス分野において、国際水準でNational Standardとなる高度専門教育システムを構築します。



取組みのイメージ図

淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム(大阪医科大学との連携)

本学と大阪医科大学が連携して行う取組みです。本取組は、淀川を挟み地域医療の中核を担っている本学と大阪医科大学が連携することで、両校が保有する基本的診療技能トレーニングの場及びFD等の教育資源を相互利用して学部学生の臨床教育の充実を図ることを第一義の目的とします。

また、大阪府、枚方市、高槻市、各医師会といった自治体及び地域医療機関等と連携することにより、両校の教育資源を地域医療人のスキルアップのためのリカレント教育や離職した潜在医療人の復職トレーニングの場を利用することを第二の目的とし、さらに、医学生に多くの医療人との交流機会を与えることで、チーム医療や生涯学習の重要性を理解させ、プロフェッショナリズムを涵養させることを第三の目的としています。

本取組の多面的な訓練を受け、新たなスキルを修得した医学生及び地域医療人が、近い将来、医療機関や教育機関において国民の負託に応えるような活躍をし、地域医療を充実させることで地域貢献を目指すものです。

第28回白菊会総会
約230名が出席

6月6日(土)午後1時から、附属滝井病院本館6階臨床講堂において、第28回白菊会総会が開催されました。白菊会会員約230名が出席、また、大学からも山下敏夫学長をはじめ、解剖学第一・第二講座関係の教員が出席しました。



白菊会会員と教職員がそろって記念撮影

学 事

第79回解剖体追悼法要

建仁寺で厳かに、多数の参加者が冥福を祈る

追悼の辞を捧げる伊藤副学長



第79回解剖体追悼法要が5月15日(金)午前10時から、京都市東山区大和大路四条下ルの臨濟宗大本山建仁寺において営まれました。教職員、学生、献体関係者ご遺族、白菊会役員ら約200名が参列をして厳かに執り行われました。

伊藤誠二副学長の「追悼の辞」に続いて参列者全員が焼香し、献体された故人の篤志に感謝を捧げ、ご冥福をお祈りしました。

解剖体追悼法要は、医学教育・研究及び診療の発展のために献体された御霊に対し、ご遺族を始めとする関係者の皆様にご臨席いただき、教職員、学生一同でご冥福をお祈りするもので、毎年5月15日に実施されています。

法要終了後、午前11時から平成21年度遺骨返還式が行われ、15名の代表ご遺族に遺骨の返還ならびに感謝状の贈呈が行われました。

マレーシアとドイツの病院での体験語る

「国外臨床実習の成果」報告会を開催

7月22日(水)午後5時から専門部学舎第一講堂において、国外の協定締結施設での臨床実習を終えた6学年学生4名による「国外臨床実習の成果」報告会が開催されました。

報告会は西川光重教授の司会で進められ、まず山下敏夫学長、藪田精昭専門部教務部長の挨拶があり、報告会がスタートしました。金下峻也さん、神田綾さんからマレーシア国立循環器病センターでの実習報告が、また、澤井未央さん、田本麻美子さんからドイツ・レーバークーセン総合病院での実習報告がありました。

報告は英語で行われましたが、どちらの実習報告も写真を多く用いたスライドが準備され、実習先の様子がよく分かるようになっていたので、聴講していた下級生からも

質問が多く寄せられました。

最後に藪田教務部長から、来年度以降は実習先が増える可能性もあり、より積極的に国外臨床実習に参加してほしいとの言葉があり、約1時間20分の報告会が終了しました。



「実習先の様子がよくわかる」とスライドが好評

11月の子供大学探検隊・本学が当番

学園都市ひらかた推進協議会開催

平成21年度第10回学園都市ひらかた推進協議会は5月8日(金)午前10時から本学が当番校として、附属枚方病院13階合同カンファレンスルームで開催されました。本協議会は、枚方市と枚方市内にある6つの大学が、学園都市ひらかたの実現に向け、調査、研究することを目的として発足、委員は枚方市長をはじめ6大学の学長らで構成されています。当日、本学からは山下敏夫学長が出席、主な内容としては、平成20年度事業計画及び21年度事業計画案

について竹内脩枚方市長が議長となり進行され、特に異議なく承認されました。

なお、21年度、本学が担当する事業計画として次の要請がありました。

- ① 子供大学探検隊(本年11月初旬予定)
- ② 市内6大学と高等学校合同音楽祭への参加要請(昨年は11月15日に本学、軽音楽部の協力を得て参加)

以上の報告及び審議を終え閉会した後、附属枚方病院の施設を見学、枚方市及び参加大学の関係者から高度な医療設備や施設に対し高い評価を得ました。

学 事

研究助成金等受贈者(採択)一覧

平成20年度に募集のあった各種助成財団による研究助成金等を下記の研究者が贈呈されました。

研究助成法人・団体等	受贈者	研究課題等	助成額等
(財)武田科学振興財団 特定研究助成 [I]2008	附属生命医学研究所 分子遺伝学部門 木梨 達雄 教授	細胞接着の時空間制御による免疫システムの動態 調節機構	5,000万円
(財)武田科学振興財団 特定研究助成 [II]2008	生理学第二講座 中村 加枝 教授	セロトニンとドパミンの均衡による意欲と衝動性のコ ントロールのメカニズムの解明	100万円
(財)武田科学振興財団 2008年度医学系研究奨励金(臨床系研究)	内科学第一講座 伊藤 量基 講師	Imidazoquinoline を用いたアレルギー性疾患治療 法の開発	200万円
(財)喫煙科学研究財団 平成20年度喫煙科学研究財団助成金	産科学・婦人科学講座 安田 勝彦 准教授	妊娠時の子宮筋収縮調節機構とそれに及ぼす喫煙 の影響	200万円
(財)藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会 平成20年度研究助成金	外科学講座 道浦 拓 助教	マルチチャンネル胃電図を用いた残胃機能評価	200万円
(財)車両競技公益資金記念財団 平成20年度がんの先駆的助成事業	病理学第一講座 池原 進 教授	骨髄内骨髄移植とドナーリンパ球輸注法を用いた癌 治療法の開発	800万円
(財)日本リディアオロジー協会 平成20年度研究助成金	形成外科学講座 覚道 奈津子 助教	自己血由来多血小板血漿 (Platelet Rich Plasma; PRP) の至適適用法とその褥瘡治癒促進効果に関する研究	50万円
(財)金原一郎記念医学医療振興財団 第23回基礎医学医療研究助成金	衛生学講座 植村 靖史 講師	ヒトインバリアントNKTサブセットのアジュバント特性 を用いたTh17応答制御法の開発	40万円
(財)森永奉仕会 平成19年度研究奨励金	小児科学講座 居原田 安奈 大学院生	小児の特発性ネフローゼ症候群の病因論的研究	40万円
(財)安田記念医学財団 癌研究助成	附属生命医学研究所 分子遺伝学部門 木梨 達雄 教授	インテグリン接着制御分子RAPLによる細胞増殖制 御と発癌機構	200万円
(財)日本興亜福祉財団 平成20年度ジェロントロジー研究助成事業	ドイツ語 菅谷 泰行 准教授	高齢者の段階的年齢区分の妥当性と偏差に関す る老年言語学的検討	50万円
独立行政法人日本学術振興会	生理学第二講座 中村 加枝 教授	日英先端科学(UK-Japan FoS)シンポジウムの参 加研究者(Discussant)として	採択
国際科学振興財団フォーラム 第15回浜名湖シンポジウム	内科学第三講座 村田 美樹 研究医員	B型慢性肝疾患におけるTGF- β シグナル伝達	50万円
独立行政法人日本学術振興会	附属生命医学研究所 生体情報部門 松田 達志 准教授	第11回日米先端科学(JAFoS)シンポジウムの参加 研究者(Discussant)として	採択
(財)内藤記念科学振興財団 第8回(2008年度)内藤記念若手研究者 海外派遣助成金(秋季)	形成外科学講座 覚道 奈津子 助教	ヒト脂肪組織由来幹細胞の移植による脂肪組織再生	採択
(財)中山科学振興財団 平成20年度中山科学振興財団研究助成	生理学第二講座 中村 加枝 教授	ドパミン-セロトニン相互関係による衝動性のコント ロールの神経機構	80万円
(財)中富健康科学振興財団 平成20年度(第21回)中富健康科学振 興財団留学助成金	生理学第一講座 林 美樹夫 助教	外分泌機能低下を緩和する制御分子の解明	50万円
花王健康科学研究会 平成20年度研究助成金	生理学第二講座 久寶 真一 准教授	パーキンソン病に特有な脳リズムに対する茶葉成分 の影響に関する研究	50万円
アストラゼネカ(株) アストラゼネカ・リサーチ・グラント 2008	胸部心臓血管外科学講座 金田 浩由紀 助教	Identification of targets in anti-cancer therapy with specimens of human lung adenocarcinoma	200万円

学 事

研究助成金等受贈者(採択)一覧

研究助成法人・団体等	受贈者	研究課題等	助成額等
(財)大阪コミュニティ財団 平成21年度眼科医療研究助成	眼科学講座 安藤 彰 講師	線溶系蛋白の発現制御型遺伝子導入による緑内障の新しい手術式の開発	100万円
(財)大阪コミュニティ財団 平成21年度ネフローゼ研究助成	内科学第二講座 今田 崇裕 助教	ネフローゼ症候群における凝固能異常と改善効果の検討	94.4万円
自然科学研究機構 生理学研究所 平成21年度共同利用研究	附属生命医学研究所 分子遺伝学部門 木梨 達雄 教授	2光子顕微鏡による免疫細胞動態制御の解析	採 択
(財)大阪対ガン協会 平成20年度ガン研究助成奨励金	病理学第二講座 上原 範久 講師	HDAC阻害剤によるSCFユビキチンリガーゼ複合体制御の分子基盤と乳癌治療への応用	30万円
(財)中富健康科学振興財団 平成20年度(第21回)中富健康科学振興財団・研究助成金	内科学第二講座 宮坂 陽子 助教	肥満による血管内皮機能と左室拡張能への影響、およびその運動療法の効果に関する検討	100万円

平成21年度学内研究助成交付決定者一覧

平成21年度学内研究助成の交付について、7月6日の学内研究助成審査委員会の議を経て同月14日の全学教授会にて決定されました。

学内研究助成 (A)

日本私立学校振興・共済事業団の「学内研究振興資金」に対応

(単位 千円)

氏 名	職 名	講座等名	所要経費	研究課題
中邨 智之	教授	薬理学	7,600	弾性線維の形成と再生の分子機構の研究—生体組織の伸縮性を生み出す仕組みの解明

学内研究助成 (B)

日本私立学校振興・共済事業団 私立大学等経常費補助金特別補助の「大学院教育研究高度化支援メニュー—大学院の基盤整備・拠点重点化支援(研究科特別経費・研究科分)」に対応:大学院医学研究科における高度な研究に対する助成

講座順、50音順に記載 (単位 千円)

氏 名	職 名	講座等名	所要経費	研究課題
森 徹自	講師	解剖学第一	3,000	成獣前脳の神経前駆細胞とその生理的意義
芦高 恵美子	講師	医化学	3,000	ノスタチン結合タンパクの標的分子TRPV6による疼痛制御機構
藪田 精昭	教授	衛生学	3,000	ヒトES細胞様組織幹細胞の同定と移植・再生医療への応用
尼川 龍一	准教授	内科学第一	3,000	骨髄不全症における樹状細胞の動態に関する研究
金子 鋭	講師	神経内科学	3,000	パーキンソン病モデル動物における内因性カンナビノイド系の役割の研究
木下 利彦	教授	精神神経科学	3,000	前頭側頭型認知症の早期診断を目的とした定量脳波学的研究
金子 一成	教授	小児科学	3,000	特発性ネフローゼ症候群のモデルマウスの確立に関する研究
浅井 昭雄	教授	脳神経外科学	3,000	静脈性梗塞予知法の開発に関する基礎的研究
宇都宮 啓太	講師	放射線科学	3,000	RI 標識アネキシンVを用いた放射線誘導アポトーシスの検出と臨床的有用性についての基礎的研究
計 9件			27,000	

学 事

学内研究助成 (C)

日本私立学校振興・共済事業団 私立大学等経常費補助金特別補助の「地域活性化貢献支援メニュー—地域共同研究支援」
対応:産学界及び国内外の大学などとの共同研究に対するの助成

講座順、50音順に記載 (単位 千円)

氏 名	職 名	講座等名	所要経費	研究 課 題
稲葉 宗夫	准教授	病理学第一	3,000	神経保護的微小環境の誘導と神経変性病態の制御
植村 靖史	講師	衛生学	3,000	多能性幹細胞由来の樹状細胞を用いてGVHDおよびGVL応答を制御する新たな医療技術の開発
福永 幹彦	教授	心療内科学	3,000	慢性疼痛患者の生活活動時の疼痛と生理機能指標および心理特性
湊 直樹	教授	胸部心臓血管外科学	3,000	統合的薬理的プレコンディショニングによる心筋保護効果の検討
覚道 奈津子	助教	形成外科学	3,000	多血小板血漿(Platelet-rich plasma: PRP)の硬・軟組織欠損に対する創傷治癒促進機構の解明
木村 穰	教授	健康科学	3,000	個人ITサポートシステムを用いた生活習慣病予防、治療効果の検討
計 6件			18,000	

学内研究助成 (D)

本学における科学研究費補助金の応募の奨励を目的とした学内助成

講座順、50音順に記載 (単位 千円)

氏 名	職 名	講座等名	所要経費	研究 課 題
赤間 智也	准教授	薬理学	250	斑状角膜ジストロフィータイプIIに見られる変異型硫酸転移酵素の活性測定
大谷 ひとみ	講師	薬理学	250	プロテアーゼ活性化受容体を介する心筋細胞リモデリングと肥大の分子メカニズム
中山 靖久	助教	薬理学	250	新規vasopressin受容体のクローニングと生理機構の解明
大谷 真志	助教	生体情報部門	250	樹状細胞mTORを標的としたがん免疫制御の試み
吉田 勝紀	助教	内科学第三	250	慢性肝疾患におけるTGF- β シグナル伝達機構の解析
荒木 敦	講師	小児科学	250	MRI 拡散テンソル画像解析による小児発達障害(自閉症・多動症)の病態解明
大橋 敦	助教	小児科学	250	早産モデルラットにおける小腸 アクアポリンの発現に関する研究
黒柳 裕一	助教	小児科学	250	早産児における胎児型ヘモグロビンから成人型ヘモグロビンへの移行に関する研究
高屋 淳二	講師	小児科学	250	摂取カチオン(カルシウム・マグネシウム)が摂食中枢に与える影響
谷内 昇一郎	准教授	小児科学	250	食物アレルギー患者における急速経口減感作療法(免疫学的寛容の機構の解明)
辻 章志	助教	小児科学	250	小児の特発性ネフローゼ症候群患児におけるリンパ球中一酸化窒素産生の役割
寺西 顕司	助教	小児科学	250	サウンドスベクトログラフを用いた早産児における肺理学療法の客観的評価法の確立
中島 純一	助教	小児科学	250	レーザードップラー血流計を用いた重症新生児仮死児の脳血流モニタリング法の確立
峰 研治	助教	小児科学	250	脳性ナトリウム利尿ペプチド(Brain Natriuretic Peptide:BNP)による未熟児症候性動脈管開存症の早期診断法の確立
吉村 健	助教	小児科学	250	川崎病患者における冠動脈障害予知因子としての血中Pentraxin 3の検討
城 信雄	助教	眼科学	250	糖尿病網膜症におけるアディポネクチンの病態解明と新しい治療法の検討
岡野 圭子	助教	生物学	250	ATP依存型プロテアーゼClpXPがシアノバクテリアの概日時計に及ぼす影響
楠本(竹本) 邦子	講師	物理学	250	軟X線顕微鏡によるピコ植物プランクトンSynechococcusの寒天質の定量化
計18件			4,500	

学 事

学内研究助成 (E)

教養部教員に対する助成(研究設備助成費-学内1/2助成)

講座順、50音順に記載(単位 千円)

氏 名	職 名	教室名	所要経費	研究 課 題
岡野 圭子	助教	生物学	1,109	シアノバクテリアの時計蛋白質KaiCの分解機構に関する解析
齋藤 里香	助教	英語	220	大容量言語データ(コーパス)を用いた、日英語感情表現にみられるメタファー、メトニミーの分析
菅谷 泰行	准教授	ドイツ語	532	ケアコミュニケーション教育のためのバーバルデータのコーパス化と定性分析
計 3件			1,861	

学内研究助成 (F)

日本私立学校振興・共済事業団の「大学院教育研究高度化支援メニュー大学院の基盤整備・拠点重点化支援(研究科特別経費・学生分)」に対応:本学に在籍する大学院生を中心とする優れた研究に対する助成 講座順、50音順に記載(単位 千円)

氏 名	学 年	講座等名	所要経費	研究 課 題
紅林 秀治	2	解剖学第一	600	海馬歯状回における神経細胞の増殖に影響を与える生育環境に関する研究
陸 景珊	4	医化学	600	一酸化窒素によるアクチンCys残基のニトロシル化に伴うドバミン遊離抑制機構の解明
石 明	3	病理学第一	600	骨髄内骨髄移植において骨髄内サイトカイン投与による造血促進の検討
矢内 勢司	3	病理学第一	600	α -ガラクトシルセラミドを併用した腫瘍細胞と樹状細胞の融合細胞による治療
荀 潤澤	4	微生物学	600	HAM高発症型変異をもつHTLV-1の機能解析
楠田 武生	3	内科学第三	600	自己免疫性膵炎患者における制御性T細胞とICOSの関係についての検討
中島 淳	2	内科学第三	600	清酒由来チオレドキシ素材によるインドメサシン胃粘膜障害軽減効果の検討
中山 新士	2	内科学第三	600	アルコール性膵炎発症における自然免疫の関与と喫煙の影響の検討
深田 憲将	4	内科学第三	600	ヒト組み換えチオレドキシ素を用いた炎症性腸疾患に対する新しい治療の検討
星野 勝一	3	内科学第三	600	TNBS小腸炎における樹状細胞サブセットの動態
櫛田 哲史	2	形成外科学	600	線維芽細胞の3次元培養による真皮創傷モデルを用いた創傷治癒、創収縮促進因子の検討
大中 誠之	4	眼科学	600	脳回転状脈絡網膜萎縮症における網膜色素上皮細胞傷害機構の解明
桑田 満喜	3	眼科学	600	遮光を併用したMNU誘発網膜変性症動物に対する薬剤治療効果の検討
嶋 千絵子	2	眼科学	600	若年、壮年期黄斑疾患に対する光線力学療法
徳田 貴則	4	放射線科学	600	ナノファイバーカバー上でのブタ生体内血管再生組織の中期的病理評価
計15件			9,000	

新任教員教育ワークショップ開催

6月13日(土)午前9時から、専門部学舎において新任教員教育ワークショップが開催されました。参加者は、山下敏夫学長、伊藤誠二副学長、藪田精昭専門部教務部長、タスクフォース5名 および教員5名 でした。



ワークショップ風景

病 院

附属枚方病院

緩和ケア外来開設、毎週月曜に診察

大阪府がん診療拠点病院の指定に伴い、早急に緩和ケアの提供が必要となることから、第一段階として緩和ケアチームによる緩和ケア外来が4月27日(月)開設され毎週月曜日、診察を行っています。概要は右記のとおりです。

〈診 療 日〉月曜日の午前(1診・2診)

〈診療場所〉2階ペインクリニック外来

〈担 当 医〉

外科：柳本泰明 助教(身体症状の緩和担当)

精神神経科：高瀬勝教 講師(精神症状の緩和担当)

〈備考〉

当方は外科患者を対象とした院内のコンサルテーション業務のみとし、地域の医療機関からの紹介は受けていません。今後、担当医師が確保でき次第に順次診療範囲を拡大していく予定です。

神経内科の入院診療始めます

枚方病院での神経内科の開設について、外来は当分の間、院内コンサルテーションのみでスタートしましたが、入院診療についても下記のとおり方針が示され実施されることになりました。

・神経内科は脳神経外科と合同で、脳卒中診療を中心に診療を行う。

・対象となる神経内科疾患は「脳卒中、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳血管障害のみ」で、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、ALS、認知症などの変性疾患は対象としない。

・具体的な治療内容は、点滴、内服などの薬剤に加え、必要時には脳血管内手術を行う。

・検査はCT、MRI、頸部血管エコー、TCD、脳血管造影検査などを行う。

3回目の市民公開講座に250余名



新型インフルエンザの影響からマスク姿で聴講

5月30日(土)午後2時から13階講堂及び合同カンファレンスルームにおいて、第3回目となる市民公開講座が開催されました。

当日は今村洋二病院長を座長に、整形外科の笹井邦彦講師が「腰痛症～その原因と対策～」を、また放射線科の鎌田実助教が「手術以外のがん治療～放射線治療、化学療法、緩和治療など～」をテーマにそれぞれ講演しました。新型インフルエンザの影響もあり、参加者には入口で備蓄用マスクを配布し、手の消毒を行ったうえでの入場となりましたが、高齢者の身近なテーマだけに事前の問い合わせも多く、当日は総数256名もの参加を得ることができました。

「防火優良認定証」交付される

枚方病院では、開院から3年間、消防設備の点検や避難訓練の実施により消防法令が遵守され、さらに5月27日に枚方消防署による立入検査が行われ、概ね良好な状態であったことから「防火優良認定証」の交付を5月29日付で受けました。2階正面玄関横に掲示しています。写真=掲示されている認定証



京阪電車での心肺停止患者の救出記事、新聞に掲載

現場で看護師さん活躍、院内でも見事な連携プレー

6月6日(土)毎日新聞夕刊に、「5月21日の早朝に京阪電車寝屋川市駅において、車内で心筋梗塞で倒れ心肺停止に陥った男性が、その後の迅速な対応で枚方病院に運ばれ、一命を取り留める」という救出記事が掲載されました。駅員のAEDによる初期対応、さらに現場に居合せた看護師や救急隊員の迅速な対応で救命されました。救急医学科・北澤康秀准教授の「即座に適切な措置がされ、病院内での連携も成功した。命を救いた」という気持ちの連鎖で救われたのだろう」とのコメントが印象的でした。



毎日新聞に掲載された記事

病院

「至福の時間を過ごせました」 サマーコンサート浴衣姿で演出

2階エントランスホールで開かれたサマーコンサート



7月18日(土)午後2時30分から2階エントランスホールでボランティア委員会主催のサマーコンサートが開催されました。

コンサート1部は定期的に演奏をいただいている高橋美穂さん、麻里さん姉妹によるピアノ演奏、2部は本学混声合唱団コールクライスによる合唱が行われました。当日は、演奏者を含め看護部のボランティア委員は浴衣姿で協力し、院内に一服の清涼感を提供していました。また、聴衆の方々のアンケートによりますと「至福の時間を過ごせました」との意見もあり、当院にとっても有意義な催しとなりました。

院内事例に真剣、医療安全講演会

7月23日(木)午後3時30分から各1時間の3部制で、13階講堂において医療安全管理部の宮崎浩彰副部長が講師となって、院内事例の事故調査委員会の報告がありました。当院ではこのような形式の講演会は初めてであり、参加者も、身近な事例に基く報告に真剣に耳を傾けていました。参加者は188名でした。

附属滝井病院

素晴らしい音色を楽しむ 七夕コンサートに弦楽四重奏

7月4日(土)午後2時から本館6階臨床講堂において七夕コンサートを開催しました。入院患者を中心に参加者は総数229名と大勢の方が来場され、素晴らしい音色を一緒に楽しみました。

コンサートは『カルテットナチュレ』出演による弦楽四重奏で、曲目は、①「踊り明かそう」②『魔女の宅急便』より「海に見える街」③「となりのトトロ」④『ハウルの動く城』より「人生のメリーゴーランド」⑤「情熱大陸」⑥「千の風になって」⑦「花」⑧「故郷」⑨「慕情」⑩「川の流れるように」⑪「見

上げてごらん夜の星を」の11曲が演奏され、終演時には大きな拍手に応えたアンコール演奏がありました。



演奏する「カルテットナチュレ」

新型インフルエンザ発熱外来を設置

手洗いが設置された発熱外来入り口



WHOがフェーズを4への引き上げとともにパンデミック期の患者受入れを想定、院内体制を整えトリアージポストを設けました。

5月19日(火)大阪府守口保健所からの要請により2号館1階東側EVホールに発熱外来を設置しました。同時に小児科においても2号館中央通路に陰圧テントによる診察室を設置しました。また、担当職員の感染予防策として、新型インフルエンザに曝露した職員に対応するため抗ウイルス薬を準備しました。

受診患者の減少に伴い6月4日(木)トリアージポストを閉鎖、発熱外来の縮小とあわせて面会制限を解除しました。続いて大阪府の決定をもとに6月6日(土)発熱外来を閉鎖しました。なお、この間発熱外来で診察を受けた患者さんは37名でした。

卒後臨床研修センター

平成22年度 採用試験を実施

平成22年度卒後臨床研修センター採用試験が下記のとおり実施されました。受験者数は、112名で昨年より18名増になりました。

実施日：平成21年7月19日(日) 筆記

平成21年7月30日(木) 面接

出願者数：113名(男子77名、女子36名)

(本学出身87名、他大学出身26名)

〈他大学出身大学〉

川崎医科大学、近畿大学、埼玉医科大学、
金沢医科大学、兵庫医科大学、愛知医科大学、

帝京大学、獨協医科大学、東京女子医科大学、
東海大学、高知大学、浜松医科大学

筆記試験

受験者数：112名(男子77名、女子35名)

(本学出身87名、他大学出身25名)

募集人員：

附属枚方病院プログラム 48名以内

附属枚方病院小児科重点プログラム 2名

附属枚方病院産婦人科重点プログラム 2名

附属滝井病院プログラム 28名以内

附属滝井病院産婦人科重点プログラム 2名

9月に2回目の 臨床研修医合同説明会

4月11日に開催された第1回の模様



本学では平成22年度採用予定の第2回臨床研修合同説明会を9月25日(金)大阪市中央区のホテル モントレ ラ・スール大阪にて開催します。今回は第1回説明会(4月11日(土)開催)に参加できなかった方に加え、前回参加した方も再度の参加をお願いします。

説明会では、本学の初期臨床研修、臨床研修制度改定によるプログラム変更や募集定員などについて説明します。説明会後の食事会では、現役臨床研修医との交流や受験者・医学生同士の歓談の場としても利用していただき

ます。さらに今回は、医学部5学年も参加を募ります。この機会に初期臨床研修プログラム等を知ってもらい、今後の進路選択の参考にしてください。

説明会の参加を希望される本学医学部5学年の方、他大学5学年の方は、下記、卒後臨床研修センターまでメール・電話等にて大学名・学籍番号・氏名をご連絡下さい。(本学5学年の方は氏名のみを卒後臨床研修センターまでご連絡下さい。)

開催日時：平成21年9月25日(金)

午後5時00分～ 説明会

午後6時30分～ 食事会(立食パーティ)

開催場所：ホテル モントレ ラ・スール 大阪

〒540-0001 大阪府中央区城見2丁目2番22号

TEL 06-6944-7111

(京阪電鉄「京橋駅」片町口よりOBP連絡通路にて徒歩3分)

申し込み・問い合わせ先：

附属枚方病院 卒後臨床研修センター

〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1

TEL 072-804-0101(内線(80)-3800,3801)

072-804-2847(直通)

FAX 072-804-2952

E-mail : sotugori@hirakata.kmu.ac.jp

Home Page : <http://www.2.kmu.ac.jp/residency/>

香里病院準備室

新病院は、どんな建物なの? 現地説明会に多数参加

「新病院はどんな建物なの?」平成22年8月開院を目指している香里病院の現地説明会を6月6日(土)、13日(土)の両日、香里病院建築竹中事務所「ザ・香里園タワーモデルルーム」で実施、建築現場の視察も行いました。

参加したのは、延べ63名で男山病院の関係者が7割以上を占めました。看護師さんたちは「来年は、ここで働くのかな」と期待が膨らんだ様子でした。

香里病院概要説明、建設工事進捗状況、香里病院立体模型の見学などがあり、説明会時点では、1階部分の躯体工事が終了し、建築進捗率は20%といったところでした。



建築現場で説明を受ける参加者

附属看護専門学校

キャンドルの明かりの中 戴帽式で力強く誓詞



戴帽式とは 2年生になった学生が、本格的な看護の専門領域の学習に向けてナイチンゲールの業績と看護の歴史を学ぶと共に、専門職業人としての意識を高め責任の重さを自覚するための儀式です。学生は、一人ひとり教員からナースキヤップを受け、ナイチンゲールの灯を戴き、静寂とキャンドルの灯の中でナイチンゲール誓詞を朗誦します。

附属看護専門学校の戴帽式が、5月12日(火)午前10時から本校講堂において行われ、看護学科29期生の82名がナースキャップを与えられました。戴帽生は、看護という

職業に対する情熱や人の命にかかわる責任感を意識するとともに、専門的な知識と看護師としてふさわしい態度を身につけるよう決意を新たにしていました。

ちかん撃退だ! 護身術の極意学ぶ

自分の身は、自分で守ろう—。ちかん撃退法等防犯訓練講習会が6月23日(火)午後2時40分から本校講堂で開かれ、新入生84名が護身術を学びました。

府警本部、旭警察署の協力を得て毎年実施しているもので、「旭区内に於ける犯罪の発生状況」の話の後、ひったくり対策、ちかん対策の実演がありました。実技では、看護学生2名が1組になって訓練、「こんな方法があるんだ」と感嘆しきりでした。



護身術を学ぶ新入生

平成22年度入学試験期日・選抜実施要項が決定

平成22年度附属看護専門学校の入学試験実施期日及び選抜方法が、次のとおり決定しました。

看護学科(3年課程)

【推薦入学試験】

1.募集人員 約40名
指定校制 1校2名(一部3名)

2.試験内容

①学科試験

国語総合(漢文、古文含まず)・小論文

②面接試験

3.入学志願書受付期間

平成21年11月2日(月)～11月7日(土)

4.入学試験日

学科・面接:平成21年11月14日(土)

5.合格発表

平成21年11月21日(土)午前9時～午後1時まで

【一般入学試験】

前期試験

1.募集人員 約30名

2.試験内容

①学科試験

国語総合(漢文、古文含まず)・現代文

英語I・II

数学I

②面接試験

3.入学志願書受付期間

平成21年12月1日(火)～12月21日(月)

4.入学試験日

学科:平成22年1月13日(水)

面接:平成22年1月14日(木)

5.合格発表

平成22年1月22日(金)午前9時～午後5時まで

後期試験

1.募集人員 約10名

2.試験内容

①学科試験

国語総合(漢文・古文含まず)・現代文

英語I・II

②面接試験

3.入学志願書受付期間

平成22年2月1日(月)～2月12日(金)

4.入学試験日

学科・面接:平成22年2月23日(火)

5.合格発表

平成22年3月6日(土)午前9時～午後1時まで

※詳細は募集要項参照

キャンパス ニュース

学長賞授与式 優勝した陸上、水泳など5団体2個人

学長賞授与式が7月8日(水)午後12時15分から専門部学舎1号館5階大会議室で行われました。平成20年度の第60回西日本医科学生総合体育大会および第22回全日本学生空手道選手権大会で優秀な成績を収めた5団体、2個人に対し「クラブ活動賞」として山下敏夫学長から賞状と記念品が贈呈されました。この学長賞は、学生生活を充実させるための励みとすることを目的に創設されたものです。

授与式には、山田久夫専門部学生部長、クラブ顧問の赤根敦教授(陸上部)、北尻雅則准教授(バスケットボール部)も出席、受賞者を称えました。

個人・団体で活躍した水泳部の栗名佳代子さんは「今年も総合優勝できるよう頑張ります」と早々と闘志を燃やすが、隣で聞いていた金子朋加さんは「今年は(総合優勝できるか)怪しい」とちょっぴり控えめな発言。陸上部の笠井健史さんは「素直にうれしい。練習の成果を評価してもらっ

た」、空手道部の中村康宏さんは「日々、厳しい練習積んできた。その成果が認められてうれしい」と受賞の喜びを語った。受賞の詳しい内容は、下表のとおり。



学長賞を手に山下学長を囲んで記念撮影

平成20年度学長賞受賞一覧<クラブ活動賞>

区分	氏名/クラブ名	内容
団体	陸上競技部(男子)	第60回西日本医科学生総合体育大会 男子総合優勝、男子トラック部門優勝
団体	水泳部(女子)	第60回西日本医科学生総合体育大会 女子総合優勝
団体	バスケットボール部(男子)	第60回西日本医科学生総合体育大会 男子団体戦準優勝
団体	水泳 女子200mメドレーリレーチーム 4学年 金子 朋加、5学年 仲井 えり	第60回西日本医科学生総合体育大会 女子200mメドレーリレー優勝
団体	陸上 男子4×100mリレーチーム 3学年 西岡 靖幸、4学年 笠井 健史、5学年 江草 豪	第60回西日本医科学生総合体育大会 男子4×100mリレー優勝
個人	4学年 空手道部 中村 康宏	第22回全日本空手道選手権大会 軽量級準優勝
個人	6学年 水泳部 栗名 香代子 ※16年度から連続受賞	第60回西日本医科学生総合体育大会 女子400m自由形優勝、女子200mメドレーリレー優勝

和やかに活発に・・・学生と教員が意見交換

教務関連から学館運営まで 教学懇談会が開催される

7月8日(水)午後6時から専門部学舎1号館5階大会議室において、本学の教育に関する学生との懇談会(教学懇談会)が開催されました。出席者は、各学年のクラス代表の学生、教務委員、学館運営委員の19名。教員は、山下敏夫学長はじめ、伊藤誠二副学長、専門部・教養部両教務部長、両学生部長、各学年のクラスアドバイザー、図書館長、附属枚方病院長、附属滝井病院長の16名に教養部、専門部の事務職員7名の合計42名でした。司会進

行を学生が行い、軽食をとりながら、各学年の大学に対する要望事項等を聞き、それに対して教員が回答するという形式で、終始和やかなうちにも活発な意見交換の場となりました。

まず、学生から、教務関連について、各学年のアンケート結果を基に、「講義中の座席の自由化」や「病理学実習の実施」、「チュートリアル」の自習時間を週の後半に配置等の要望が出され、学館運営関連では、教養部「図書館コ

キャンパス ニュース

ピー機の硬貨利用化」や「シャワーの一般開放」等の具体的な改善要望がありました。また、枚方新学舎に対し学生側から大きな期待が寄せられています。講堂の空調整備や生協といった売店の導入についても意見が出されました。

これらの要望に対して、教員からそれぞれに回答を行った他、医学生としての自覚、態度・人間性の育成や枚方新学舎についての話がありました。最後に、山下学長から、本日の会の内容をクラス全員に伝えて欲しいと挨拶があり、午後8時過ぎに閉会しました。写真は、各学年クラス代表らと懇談する教員



メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。
(平成21年5月1日～7月31日)

石崎 優子 講師 (小児科学講座)	日経新聞 夕刊 5月15日(金)	不登校になる子供の中には、自律神経の乱れが原因の起立性調節障害を患うケースが少なくないが、「親だけでなく校内のルールが壁になることもある」と指摘しています。
海堀 昌樹 講師 (外科学講座)	毎日新聞 朝刊 7月12日(日) Japan Medicine 7月17日 通常号 7月31日 月間号	肝がん手術後に起こりやすい胆汁漏れの合併症を防ぐ手術手法(試薬を胆管に注入、赤外線カメラで切れた胆管を見つける)を考案、同手法により予後の改善が期待されるとの記事が掲載されました。また、大阪市で開かれた日本消化器外科学会総会2日目の7月17日の講演内容がJapan Medicineにも紹介されました。
岡崎 和一 教授 (内科学第三講座)	日経産業新聞 7月22日(水)	下痢や下血を繰り返す難病の潰瘍性大腸炎の新たな治療法を開発。薬物送達システム(DDS)を活用し、治療薬のステロイド剤をカプセルで取り込むため、薬の使用量が減り副作用も起こりにくい。

メディア情報をお待ちしています

教職員の方々がメディアに登場された場合に掲載させていただきます。このコーナーは、皆様からの情報提供によって構成されます。テレビ出演が予定されている時は、前もって下記の情報連絡先までお願いします。

なお、このメディア情報欄で紹介するのは、朝日、産経、

日経、毎日、読売の5大紙およびNHK・毎日・朝日・関西・読売の各テレビ局、主要な月刊誌、週刊誌等に取り上げられたものに限らせていただきます。

情報連絡先

総務部広報課 電話 06-6993-9672(内線 2138)
mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp

同 窓 会

会員名簿について

〈お知らせとお願い〉

2009年版同窓会会員名簿は、2009年11月中旬に発行予定です。

- 平成17年に個人情報保護法が制定されました。当会はこの法律に基づき当会が保有している情報を管理し、印刷および製本はプライバシーマーク使用許諾証を保有している業者で作成致します。
- 配布先は従来通り同窓会会員と広告協力会社(覚書書を交換)となります。
- 名簿記載住所、勤務先、電話番号等、記載事項の変更をお知らせ下さい。今まで通り発行いたしますので、ご異論のある方は同窓会事務室までご連絡ください。

関西医科大学同窓会名簿担当

田代 芳子 子安 佳子 藤井 康英 加賀 典雄 立岩 二郎 北尻 雅則
〒570-0078 守口市平代町8-27 加多乃会館内
TEL 06-6993-0121 FAX 06-6991-6221
E-mail:dousouka@takii.kmu.ac.jp

お知らせ

平成21年度職員定期健康診断を実施

今年度の定期健康診断は、委託業者が変更となり下記日程で実施することになりました。職員の皆様全員が受検いただきますようご協力をお願いいたします。

なお、期間中に受検できなかった方は、直接委託業者(結核予防会大阪府支部)へ行き受けるか、他医療機関にて実施するかを選択し、検診結果を必ず提出していただくこととなりますのでご承知おきください。

記

枚方地区

日 時：平成21年11月9日(月)～11月13日(金)
午前9時～午後5時
場 所：附属枚方病院13階講堂
問合せ先：安全衛生管理部(内線(80)3065)

滝井地区

日 時：平成21年9月7日(月)～9月11日(金)
午前9時～午後4時30分
場 所：専門部学舎1号館1階 各会議室
問合せ先：健康管理センター・安全衛生管理室
(内線(81)2162)

学生健康管理室からのお知らせ

学生定期健康診断実施について

学生定期健康診断は、医学部生2～6学年および大学院生を対象に財団法人結核予防会に外部委託して実施しています。

今年度は、5月20日(水)～22日(金)の3日間に実施する予定でしたが、新型インフルエンザ発生の影響を受け全学休講(5/18(月)～5/22(金))となったため、7月13日(月)～15日(水)に日程を変更して実施しました。受検率は、医学部生が、518名中517名が受検し、99.8%、大学院生が、99名中19名が受検し、19.2%でした。

なお、今回未受検の大学院生は、9月7日(月)～11日(金)に実施される職員定期健康診断時に必ず受検してください。

インフルエンザ対策について

今年は、季節性インフルエンザと新型インフルエンザが流行し、本学でも二度休講となりました。新型インフルエンザは、夏になった今でも感染者が出ている状況にあり、秋には第二波がくる可能性があります。油断せず、手洗いうがいの励行、体調管理を十分にしましょう。

ホームページで閲覧できます

この広報誌は、関西医科大学と教職員、学生、同窓生、保護者を結ぶコミュニケーションツールの一つです。皆様からの記事の提供、企画、ご意見などありましたら、広報課までご連絡よろしくお願ひ致します。

なお、このほど本学ホームページに既刊の「関西医科大学 広報」をPDFファイルにて掲載しています。

訂正

前回発行、広報Vol.5の3頁・平成21年度医学部・新入生の氏名一覧中、1行4列目「宗 美穂子」と2行6列目「平井 千恵」は誤りでした。「宋 美穂子」「平井 千恵」に訂正してお詫び致します。

編集後記

例年なら祇園祭巡行、天神祭の頃には、梅雨が明けスカッと晴れる日が続きますが、今年は、日本列島あちこちで集中豪雨に竜巻。何か変です。地球温暖化の影響か?気象庁でも異常気象分析検討会を開いたとか。天候とは裏腹に暑い夏にしたのが総選挙。戦後、総選挙は21回あったが、8月の総選挙は初めてです。都会の喧騒はピークです。しかし、この広報誌が皆さんのところに届く頃には、24節気の処暑(暑さが終わる)が過ぎ白露(秋らしくなる)を迎え、あつという間に秋です。夏の疲れを残さないよう体調管理に気を配りましょう。

さて、今回のVol.6は、21年度の「アクション2015」実行プロジェクトチームを紹介、また、「第7次自己点検・評価委員会活動報告」では、平成19年度・20年度の主な活動を取り上げました。

特筆したいのは、田代裕元学長と熊澤忠躬名誉教授のお二人が、執筆された本「関西医科大学の創設史をめぐって」です。廃校の危機を乗り越えたことなど波瀾万丈の創設期が綴られています。両氏の熱意には、心から敬意を払いたと思います。

第一面は香里病院の最新写真です。来年開院しますが、どの程度できているのか、関心を持たれていると思い掲載しました。着工から1年、開院まで1年、順調に進んでいるようです。(M.N)

関西医科大学広報 Vol.6

発行 学校法人 関西医科大学
編集 総務部 広報課
〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15
Tel 06-6992-1001 (代表)
Fax 06-6993-5221
<http://www.kmu.ac.jp/>
E-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp
平成21年8月28日(金)発行